

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 ネットワーク『地球村』

所在地	〒530-0027 大阪市北区堂山町 1-5 大阪合同ビル 301 号 TEL: 0 6 - 6 3 1 1 - 0 3 0 9 FAX: 0 6 - 6 3 1 1 - 0 3 2 1 E-mail: office@chikyumura.org		
ホームページ	http://www.chikyumura.org		
設立年月	1991 年 1 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 2002 年 10 月 11 日		
代表者	高木 善之	担当者	木下 弘美、渡辺 裕文
組 織	スタッフ 20 名 (内 専従 18 名) 個人会員 1 万 3 千名 法人会員 50 社 その他会員 (賛助会員等) 名		
設立の経緯	松下電器産業㈱に在職していた高木善之氏が個人で始めた環境活動で、社内外に多くの仲間が広がり、1991 年に N P O 法人ネットワーク『地球村』を設立。1992 年にリオ地球サミットに出席してから国連活動にも参加。		
団体の目的	国連などの提唱する「地球と調和する社会 (地球村)」の実現を目的として設立されました。グリーンコンシューマが増えることで、環境破壊だけでなく飢餓、貧困、差別、戦争などのない社会の実現を目指して、啓蒙啓発、問題解決のための活動、提言活動を行っています。		
団体の活動 プロフィール	【活動】 啓蒙啓発 (講演会、セミナー、勉強会など) や、会報『地球村通信』、書籍、ビデオなどで情報発信を行っています。 特に講演 (数名の講師で年間 500 回) を通して、市民には啓発、意識、価値観の転換、ライフスタイルの転換、行政には、政策提言、企業には、提言や協力などを行っています。 他に、学校での「紫外線対策」や「プラスチック食器の見直し」、環境市民会議、ピースパレード、環境家計簿の普及などの活動を行っています。 また、地球規模 N G O、市民ネットワーク『地球市民国連』の設立を提唱し、国内外に大きくネットワークが広がっています。 国際支援としては、難民支援 (アフガニスタン)、イラン大地震、スマトラ沖地震・津波等の支援活動、国連機関との協力活動も実施。 【プロフィール】 現在、会員数約 1 万 3 千名、支部が国内に約 110 ヶ所 (2005 年 8 月現在) 2002 年には、N P O 法人格を取得。 2002 年、国連 E C O S O C (経済社会理事会) 特別諮問資格、国連 D P I (広報局) 登録 N G O の認証を受けています。		

活動事業費 (平成 16 年度) 約 5800 万円

政策のテーマ Web版環境家計簿の普及（ストップ・ザ・温暖化 キャンペーン）

■ 政策の分野

- ・ 地球温暖化の防止
- ・

■ 政策の手段

インターネットを使った環境家計簿の普及・省エネの推進

団体名：ネットワーク『地球村』

担当者名：木下弘美、渡辺裕文

政策の目的

1997年の京都議定書による国際公約である地球温暖化の原因であるCO₂を6%削減するという目標を達成するために、まず100万人の市民が力を合わせて90年比6%削減しようというキャンペーンです。市民や企業、自治体が力をあわせることで6%削減を早期に達成し、日本政府と共にさらなる削減をはかり、地球温暖化問題を解決して行きたいと思います。

背景および現状の問題点

今年は政府がチームマイナス6%を発足させ、クールビズの導入を積極的に行い、少しずつ地球温暖化への関心が高まっています。また、市民や企業、自治体などが様々な取り組みをしていますが、現実のCO₂排出量は1990年比で8%の増加となり、京都議定書の目標達成（マイナス6%）までかなりの削減が必要な状況です。政府や企業の取り組みだけでなく、市民ひとり一人の意識が変わることが問題解決の鍵となります。ただ、多くの市民にとって日常生活が環境問題につながっている意識が浸透していません。こうした状況を打開するために、日ごろ環境意識を持たずに暮らしている人たちにも興味を持ってもらい、気楽に地球温暖化対策にむけての取り組みを始められることに視点をおいたSTOC（ストップ・ザ・温暖化キャンペーン）を進めています。このキャンペーンでは、インターネット上で誰でも簡単に取り組めるWEB版環境家計簿を展開し、自分たちの生活によるCO₂排出量の確認をし、その削減に取り組み、成果をHP上でアニメーションを使って分かりやすく表示します。また、環境意識も高く環境家計簿をつけている人も多くいますが、その成果を個々の単位でしか見ることができず無力感と孤独感にさいなまれることも少なくありません。そこで全国の取り組みを集計し、全国での力を集結した時にどのくらいの成果が出せたのか、全国で何人の方が一緒に取り組んでいるのかがひと目で分かるものにしました。このキャンペーンを通じて環境問題への関心を高め、地球温暖化をとめるための市民レベルでの活動を推進し、その過程でたくさんのステークホルダーをネットワークし、最終的には国レベルでの活動につなげていきたいと考えています。

政策の概要

地球環境問題に関心を持ち、地球温暖化を止めたいと願っている全国の人たちとインターネット（HP）でつながり、ひとり一人の、ひとつひとつの積み重ねをきちんと目に見える成果としてまとめていくのがSTOCです。このSTOCに参加することで、市民の環境問題への意識を高め、温暖化防止、ひいては地球環境問題解決への第一歩としたいと思っています。

STOCのHP（<http://stop-ondanka.com>）では毎月の電気・ガス・灯油・ガソリンの使用量と料金を入力するだけで、CO2の排出量、削減率が自動計算されます。その結果はグラフとアニメーションで表示され、家族そろって環境問題について考えることができるようになっています。個人はもちろん、都道府県別、自治体別、企業・各種団体別の成果とランキングも表示されます。キーワードは「楽しみながら環境問題に取り組む」こと。楽しいことは広がるので、このキャンペーンをきっかけに環境問題に取り組む人が一人でも増えることを願っています。

- ・ 地球温暖化の防止

先述したように地球温暖化の防止は急務。

- ・ インターネットの利用

個々の結果がリアルタイムで集計され全国の成果が一目で分かる。

- ・ 利便性

個人や団体の削減量や削減率はすべて自動計算。

- ・ 誰もが参加できる

登録は無料。誰でも簡単に参加できます。削減実績をホームページを通じてアニメーションで確認でき、大人から子どもまで楽しめる。また携帯電話からのアクセスも可能で、パソコンを持っていない若者でも気楽に参加できるように工夫している。

（<http://stop-ondanka.com/m/>）

- ・ ネットワークの可能性

このキャンペーンに多くの企業、NGO/NPO、行政が参加し共に取り組むことで様々な環境問題の解決に向けたパートナーシップが形成される。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

STOC ストップ・ザ・温暖化キャンペーンHP <http://stop-ondanka.com> 2005/10リニューアル予定

- ・ ストップ・ザ・温暖化キャンペーン実行委員会の設立

実行委員会形式にすることで多くの団体や個人が取り組みやすくし、企業、行政との連携を図る。地球温暖化防止に取り組むたくさんの団体でネットワークを組むことで、より大きな成果を生み出すことを目的としている。

- ・ 呼びかけ人・団体、賛同者の募集（個人、公人、行政、企業など）

著名人などに呼びかけ人となってもらい参加者の拡大を図る。

- ・ PR活動

全国的な広報活動はもちろん、様々な地域での草の根的な呼びかけを実施する。

- ・ 個人、企業、行政、各種団体・グループでの参加

キャンペーンの成功はもちろん、将来のネットワーク、パートナーシップ作りの基盤となる。

- ・ 2006年 参加者100万人を目標

参加者が100万人規模になることで政府が決めたCO2削減目標を実現可能なものと位置づける。

- ・ 2010年 CO2を90年比6%削減

政府目標を前倒しで達成し、STOC参加者だけでなく、広く一般の人や企業にも広げ、日本全体として6%削減を早急に達成することを目指す。市民だけではなく、NGO、学校、自治体、企業、政府が連携して、「美しい地球を子どもたちに」残していくために連携していく。地球規模の問題は温暖化以外にもたくさんあるので、全ての利害関係者が連携して問題解決を目指すモデルケースになることを目指す。

政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

ネットワーク『地球村』

すでにHP内にSTOC ストップ・ザ・温暖化キャンペーンのホームページを開設し
事務局内に同実行委員会を設立

札幌市、枚方市

自治体用ソフトを共同開発し、町内会単位など様々な形で取り組んでいます。

成果は当キャンペーンに算入し共に温室効果ガスの排出削減に努し、他の自治体へのソフトの提供も検討している。

実行委員会

参加者を募集中。様々な団体、個人のHPでリンクし当キャンペーンの拡大を図る。

他のNGO、ネットワーク

100万人のキャンドルナイト実行委員会等のCO2排出削減に取り組むグループと連携を進める

政策の実施により期待される効果

すでに多くの市民や企業、自治体、NPO・NGOが温暖化防止に取り組んでいますが、国全体としてはCO2の排出量は減っておりません。このため、今こそ市民や企業、自治体が協力してその成果を目に見える形にして、京都議定書で決まったCO2の削減目標達成は可能だということをアピールして行くことが必要です。

誰もが楽しみながら簡単に取り組めることでより多くの人がこのキャンペーンに参加することができ、それぞれがネットワークし力をあわせていけば、きっと大きな成果が生まれます。

このSTOCを通じてできたネットワークが将来の様々な問題解決のためのパートナーシップの基盤になり、その成果が「やれば出来るんだ」という温暖化防止だけではなく、様々な環境問題の解決に向けた原動力となると思われます。

政府の削減目標を前倒しでこのキャンペーンが達成することで、政府がより多くの温室効果ガスの削減目標を掲げることができれば、この地球環境の改善に日本として大きく貢献することができ、国際社会にも貢献できるでしょう。何よりも未来のために私たち一人一人が貢献することができるでしょう。

その他・特記事項

- キャンペーンソング「ペンギン皆兄弟」（さだまさし氏作詩作曲）をCD化し作成。また、その曲に合わせて皆で楽しく踊れるSTOCダンスを、愛・地球博等のイベントで披露している。

● ドイツの取り組み事例

当初ドイツ政府の削減目標は、7年間で約10%の削減。でもその目標に対してドイツの環境NGO BUND（ブント）青年部がこんなユニークな取り組みで政府に賭けを挑みました。その名も「Die Wette（賭け）」。

「自分たちの手で二酸化炭素を減らそうよ。僕たちの方がきつとうまくできるよ！」
はじめたのは、たった8人の学生。でも次第にその取組みに12万人という多くの学生や市民が協力。そして、7年よりもはるかに短い、たった7ヶ月間で10%の削減を達成しました。
これがドイツ政府の削減目標は25%へ大幅に変わるひとつの原動力となったと言われています。現在、このドイツの取り組みは、欧州の10カ国以上に広がりを見せています。

また、韓国でも温暖化を防止する市民運動が、数十万人規模で行われています。
こうした海外の取り組みとの連携も視野に入れた活動を行っていくことを予定しています。